

創意工夫

12月号
145号

2020.12.26発刊

～高付加価値部品のトップブランドを目指して～



株式会社 石金精機

第51期決算報告

外部環境の変化に伴い、適切な判断を実行し

Originality a device



清水 克洋

第51期を振り返って

非常に厳しい数字に終わった第50期を踏まえ、業績改善を目指し2019年10月にスタートした第51期でしたが、コロナ禍の影響を大きく受けて目標に対して未達という結果となりました。

和田顧問、伊藤顧問と共に、昨年の夏頃から業績改善に対する様々な取組みをスタートさせ、第2四半期には単月の業績にもその成果が表れ始め、通期においても結果を残せるのではないかと考えていた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大が日本国内でも始まりました。この感染拡大は、当社の業績にも大きな影響を及ぼし、今もなお、不透明な状況が続いています。しかしながら、第51期全体を振り返ると悪いことばかりではなく、当社にとっては

大きな転換期となったのではないかと考えています。

具体的には、当社長年の経営課題であった「納期遅延」を大幅に解消することができた点です。

5年先、10年先に2020年を振り返った際に、「あのコロナのおかげで納期遅れゼロ化の達成が可能となった基盤づくりに成功した」と評価できるような歴史にする必要があると思いますし、しなければいけないと考えています。

納期遅延の解消は、協力工場さんの負担軽減にもつながったと思います。これまで、納期管理が曖昧になっていた部分があり、突発的な短納期対応を協力工場さんにお願いすることが多々ありました。そういったお願いが協力工場さんの大きな負担となっていたことは容易に想像できます。今回、納期遅延を大幅に解消できたことで、内作と外作について、それぞれの負荷状況を勘案しながら、効率的に使い分けられることができるようになりました。当社にとっては、協力工場さんに対して短納期対応の要請を減らすことで外注費を削減することができ

ましたし、協力工場さんにとっては納期をしっかりと確保された製品を中心に、ご対応頂けるなど、お互いにメリットがある改善につながったと考えています。

今後は、協力工場さんに対する外作依頼時の管理体制強化と、当社の内作に関わる生産効率の向上を同時進行で改善・強化していくことで、納期遅れゼロ化に向けた管理体制の更なる強化と収益確保を実現していきたいと思えます。

今後の動向について

「ウィズコロナ」や「アフターコロナ」など感染状況の変化に伴い、様々な言葉が使われていますが、各企業ひいては日本全体の景気動向については、現時点で予測や判断することは難しく、不明瞭な外部環境の中で、各企業が経営戦略を模索していく必要があると思っています。

当社が取り組む事業展開においても、半導体分野はオンラインシステムなどコロナ禍をキッカケとして加速したIT化の動きを受け、好調に推移していますが、航空機分野においては従来の受注状況に戻るためには多くの課題が山積している状況です。しかし、世の中から航空機がなくなることは考えにくく、今の状況を耐

えるための対策が必要です。

航空機分野を担当するAPPSが保有する加工機は、航空機部品の専用機ではなく、様々な業種業界の製品加工に使用できる汎用機です。これらの加工機の稼働率を高めるため、加工機にマッチした製品の受注獲得に向けて、営業活動を推進したいと思います。

その他、工作機械部品など的一般機械部品の動向は、概況の把握も困難な程、目まぐるしく状況が変化しています。営業課を中心に、お客様ひいては業界の変化に対してアンテナを張り、適切な営業戦略を立案し、実行していくことが必要だと思っています。

昨期一年間を通して、外注費・現場消耗品費・販売管理費の削減に向けて各部署で様々な努力をして頂きました。コロナ禍の影響による売上高の低下が大きいため、成果として実感しづらい状況ではありますが、素晴らしい改善になってきたと考えています。

これらの取組みを継続し、更なる昇華を目指しつつ、受注拡大によつて結果として成果を感じることで、第52期とします。この協力のほど宜しくお願いします。

2020年の振り返り

■各部署の皆さんに、2020年を振り返り、一文字で表現していただきました。また、仕事面とプライベート面における印象的な出来事も伺いました。



生産管理課
深川さん

▼今年を一文字で表現

速

(選定理由)

今年は何年よりも速く一年が過ぎ去ったような感覚があり、「速」という一文字を選定しました。やはりコロナ禍による影響は大きく、ステイホームの時間が長かったため、刺激的な出来事が少なくなり、時間の経過が速くなったと思います。

様々な所で、多種多様な制限が設けられたことで、仕事においてもプライベートにおいてもチャレンジする機会が減少し、変化の少ない日々を過ごしていたと振り返ります。

▼2020年での印象的な出来事

プライベート面では、昨年から



品質管理課
今井さん

▼今年を一文字で表現

馬

(選定理由)

コロナ禍の影響として、操業短縮により例年と比較し休日が大幅に増加しました。日本全国において不要不急の外出自粛要請が発令されたこともあり、仕事以外の時間が増え、時間を持て余すようになりました。その空いた時間を活用しておこなったのが競馬でした。

今年の競馬界では、牡馬牝馬で無敗の三冠馬がそれぞれ誕生し、またG1レース最多勝利数記録が塗り替えられる年となりました。歴史に残る数々の出来事が起こったこともあり、馬という文字を選定しました。

▼2020年での印象的な出来事

仕事面では、コロナ禍の影響で突発的な短納期の仕事を含めて、納期対応に苦戦したことが印象に残っています。先述の通り、操

業短縮により勤務時間も限られる中で非標準化した納期対応に苦戦しました。

プライベート面では、やはり競馬のことが印象に残っています。スプリングチャンピオンシップを驚異的な末脚で差し切ったグランアレグリア、ジャパンカップを無敗の三冠馬達を力でねじ伏せたアーモンドアイなど歴史的瞬間を目にすることができ、嬉しく思っています。



製造二課
海原さん

▼今年を一文字で表現

耐

(選定理由)

仕事においても、プライベートにおいても耐える一年だったと思います。受注量の減少により、当社の製造現場の様子も大きく変わりました。同様に地域の祭りや様々な行事・イベントが中止となり、これまでに経験したことのない世の中の動きを目の当たり

にしました。

この状況がいつまで続くかは分かりませんが、状況が好転することを祈りながら、日々の生活において自分ができる工夫や気遣いを実施したいと思います。

▼2020年での印象的な出来事

仕事面においては、普段では携わることのない工程の仕事を経験できたことが印象に残っています。バリ取り工程を経験したこと、前工程における製品の取り扱い方への考えが変わりました。どの工程であっても、製品を丁寧に扱うことは大前提であり、加工面のキズへの配慮がお客様からの品質に対する満足感にもつながると理解しました。細かな点から注意して作業を進めていきたいと思えます。

プライベート面では、甥っ子が私の出身高校に入学しました。課は違いますが、同じ工業高校に入学したことを嬉しく思い、3年間の授業を通してものづくりに対する関心度を高めて欲しいと思っています。





製造三課
松枝さん

▼今年を二文字で表現

単

(選定理由)

コロナ禍の中で、何か一人でも楽しめるものはないかと、バイクを購入しました。そのバイクで、休日にツーリングやラーメン屋巡り、「鬼滅の刃」の映画鑑賞も一人で行くなど、密を避けるために単車での単独行動が今年一年を振り返る中で印象に残っているため『単』を選定しました。

▼2020年での印象的な出来事

仕事面では、コロナの影響を受け仕事量が減少しました。その状況の中、工作機械用のツールホルダの修理依頼が印象に残っています。ツールホルダに関して、新規品の加工・組立が主な私の役割ですが、初めて修理対応を行いました。普段製作する形状とは異なり、対応に苦戦しましたが、無事に修理と組立ができた点は良かったと思います。

プライベート面では、石金ツーリングクラブ(仮)のメンバーと馬場島でのデイキャンプや能登方面へのツーリングに出掛けたことが印象に残っています。

その他にも、学生時代以来となる、友人とのツーリングなど、コロナ禍をきっかけに購入したバイクが大活躍した一年だったと思います。

また、密を避けるために飲食店での食事ではなく、会社の同僚や友人達と例年以上にBBQを行ったことも印象に残っています。



APS
谷井さん

▼今年を二文字で表現

禍

(選定理由)

一年を振り返ると、やはりコロナ禍が思い浮かびます。仕事においては、生産調整など年始には全く予測していない出来事もあり、コロナ禍の影響を感じずにいられない一年だったかと思っています。

「鬼滅の刃」ブームもあり、「滅」と迷いましたが、自分自身も含め全世界の方々の生活が大きく変貌したことを踏まえると、『禍』を選定に至りました。

▼2020年での印象的な出来事

APSに所属していることもあり、コロナ禍の影響によって、大きな変化がある航空機分野の動向が気になります。製作依頼のある加工や社内での体制の変化によって、目まぐるしく状況が変わった一年間でしたが、その中でもボーイングのマニホールドの加工が印象に残っています。私が担当する工程はすべて手仕上げであり、厳しい交差要求がある部品かつ、製作個数も多かったため印象に残っています。

コロナ禍の影響がどのように進むかは分かりませんが、来年は仕事面においてもプライベート面においても充実した一年だったといえる期間になれば良いと思っています。



営業課
網さん

▼今年を二文字で表現

変

(選定理由)

私は今年の6月22日に入社しました。これまでは製造現場にて機械加工の仕事や工程管理、設計業務に従事してきました。その後、様々な世代に対してサッカークラブなどを運営するスポーツ事業を知人とともに立ち上げました。

コロナ禍の影響が大きく、その事業を知人に任せ、当社への転職を決意し、現在に至ります。当社では営業課に配属となりましたが、これまで経験の無い営業職に就いたことも、自分自身における変化だと思っています。また、コロナ禍の影響により、常にマスクを着用し、消毒の徹底や三密の回避など、新しい生活様式への変化があったことも、選定理由の一つです。

▼2020年での印象的な出来事

先述の通り、生活スタイルが変わったことで家族と過ごす時間が増えました。前職では、帰宅すると子供が寝ている時間になり、土日にも家にいない日がほとんどでしたが、現在は長い時間を共に過ごすことができおり、子供の成長を、日々実感できることを嬉しく思っています。また、共に過ごす時間が長いので、以前よりも子供がなついてきたようにも感じています。

仕事面においては、初めて経験する営業職に慣れることで一杯だったと振り返ります。石金精機の強みを自分自身がしっかりと理解して、一日も早く、お客様に訴求出来るようになりたいと思っています。

また、これまではサッカークラブに指導する側でしたが、現在は先輩方に指導していた立場です。その変化にも戸惑いながらも、石金精機の従業員の皆さんや多くのお客様との関係性を構築できるように、頑張っていきたいと思っています。



石金精機の

社員紹介リレー



2014年8月号(第71号)より連載を開始した「社員紹介リレー」ですが、今回で完結となります。最後は、今年度当社に入社した新入社員2名に約8カ月の勤務を経て感じたことを伺います。



左：品質管理課 外澤さん
右：製造一課 村澤さん

現在の仕事内容

外澤さん 当社で加工した製品の中間検査および最終検査と特定顧客向け製品の外觀検査を主に行っています。その他、型版・製番のレーザー刻印も担当しています。

村澤さん 私は、汎用旋盤機での旋削加工を行っています。図面を確認し、指定された寸法まで削ることがメインの作業であり、先輩方に加工時の注意点を教わりながら取り組んでいます。

現状の課題と今後の目標

外澤さん 品質管理課で対策を検討する不適合のほとんどが外

観不良です。私も外觀検査の一部を担っているので、見落としがないように、社内ですっかりと検査することが必要と感じています。

入社して8カ月近くが経ち、担当する業務にも慣れてきました。その中で感じるのが、先輩方との検査スピードの差です。今後多くの検査業務を経験すると思いますが、その中で如何に正確かつ効率的に検査を進めるか、先輩方から学びながら成長していきたいと思っています。

村澤さん 私の課題は、図面の見落としによる削り過ぎなどのミスが多いことです。慣れや勘違いから、先輩方に教えていただいた図面確認の手順とは異なるやり方を実施していることが要因だと思っています。このミスを削減するためにも、図面のどこに留意して作業を進めたら良いのか、図面を読む力を養っていききたいと思っています。

将来的には、先輩方のように多くの加工を担えるようになりたいと思っています。

当社の経験について

外澤さん 三次元測定器において、単独で測定プログラムを組むことができるようになり、成長を

実感しています。また、顕微鏡やダイヤル測定器など扱える検査装置が増えてきたことも嬉しく思います。

私は文系出身で、入社するまで図面を見たこともなく、平面で記載された製品を立体的に捉えることに苦手意識をもっていました。三角関数など検査において基本となる考え方も理解していませんでしたが、日々先輩方に指導していただきながら作業することで少しずつ知識がついてきて、自分自身でも驚いています。苦手意識をもっていただけにも楽しんで感じられるようになりました。今後出来ることを増やしていきたいと思っています。

村澤さん 入社当初より、加工ミスを減つたと思います。薄く、長い形状の製品を加工する際は、旋盤機に押し当てる力の強さでワークが変形してしまうことがあり、様々な部品を加工する中で、加工方法に関わる知識も付いてきました。

また表面粗さを旋盤機の回転数で調整する感覚も少しずつ身につけてきたと思います。このように成長できたのは、分からないことを聞くと、親切に優しく教えてくださる先輩方の助けがあったこそだと思っています。今後は、少しでも先輩方の助けになるような仕事ができればよいと思っています。

インターンシップ開催報告

12月8日から10日に富山工業高校の生徒を招き、インターンシップを開催しました。頂いた感想文をご紹介します。

インターンシップでは、学校生活とは異なった貴重な体験をさせていただき、毎日が勉強になることばかりでした。

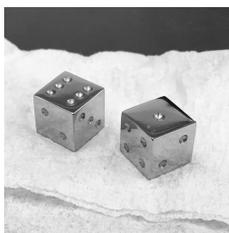
特に印象に残っているのが研削工程実習です。加工された金属の研削から寸法の測定まで社員の方に丁寧に教えていただき、業務内容を理解することができました。

このインターンシップを通じて、「働く」というイメージを深めることができました。
(緒方さん)



学校ではできないことを体験し、とても充実した三日間になりました。この三日間で仕事の大きさや石金精機で作られている物の工程を知ることができました。

また、会社ではコミュニケーションがとても大事だということも実感しました。この経験ができたことは、今後の自分の人生にとっても役立つと思います。社員の皆様には、お忙しい中自分たちのために、貴重な時間を割いてご指導して下さいました。心にとめて感謝しています。
(真田さん)



安全衛生委員会からのお知らせ

【コロナウィルス予防対策】

「3密回避」

「手洗い」

「咳エチケット」



※社内報を活用し周知してきた「安全衛生委員会からのお知らせ」ですが、今後は社内掲示板での周知となります。各自確認をお願いします。